

環境経営レポート

2020年度

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

発行日：2021年4月20日



環境経営方針

□ 基本理念

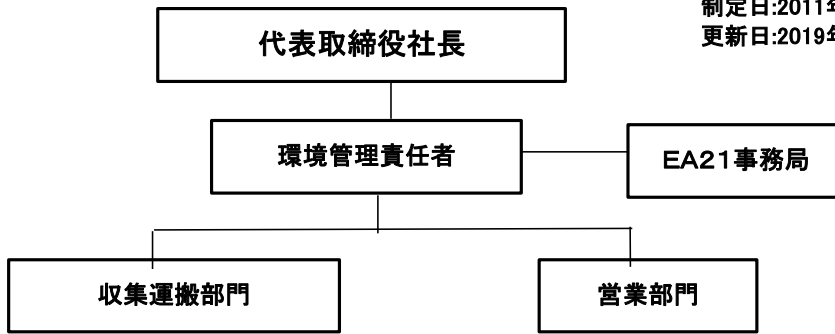
株式会社ソネザキは、廃棄物の収集運搬業務を通じて、循環型社会構築に向けて積極的に取り組み、地球環境及び地域環境の負荷を軽減し、持続可能な社会に貢献します。

□ 環境経営方針

1. エネルギー使用量の効率的利用によりCO2の削減に努める。
2. 廃棄物の収集運搬業務を通じ、循環型社会の形成に貢献する。
3. 廃棄物の再資源化及びリサイクルの推進に努める。
4. 水使用量の削減に努める。
5. 行政機関、地域や関係団体等との連携を密にし、社会全体の環境保全活動に積極的に参画・支援・協力する。
6. 環境関連法規等や当社が約束したことを遵守する。
7. 環境経営方針は、全従業員に周知する。
8. 環境経営目標・活動計画を定め、継続的改善に努める。

制定日：2011年4月1日
改定日：2019年4月1日
株式会社ソネザキ
代表取締役 藤下 正幸

制定日:2011年4月1日
更新日:2019年4月1日



	役割・責任・権限
最高責任者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・代表者による課題とチャンスの作成、定期的に見直し ・環境経営方針の策定、見直し ・環境経営目標、環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標、環境経営計画書を確認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示に必要な情報(環境経営目標の達成状況等)を報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ・自主的・積極的に環境活動へ参加。

【主な環境負荷の実績】

項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度
電力使用量CO2排出量	kg-CO2	4,933	4,955	5,560
自動車燃料使用量CO2排出量(ガソリン)	kg-CO2	1,995	1,703	1,612
自動車燃料使用量CO2排出量(軽油)	kg-CO2	95,723	83,899	74,727
CO2排出量合計	kg-CO2	102,651	90,557	81,899
一般廃棄物排出量	kg	240	230	215
水使用量	m ³	240	241	246
収集運搬運搬量	t	4,580	4,620	2,977

※ 2017年度電気事業者別二酸化炭素調整後排出係数：関西電力株式会社 0.418kg-CO2/kWh

※ ガソリン：二酸化炭素排出係数 2.32kg-CO2/L 軽油：二酸化炭素排出係数 2.58kg-CO2/L

【環境経営目標・実績】

環境経営目標	単位	基準年度	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度
		2017年度～2018年度 (基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
収集運搬運搬量 (a)	t	4,525	—	2,977	—	—	—
電力使用量 (b)	kWh	11,648	—	13,302	—	—	—
電力使用量原単位 (b/a)	kWh/t	2.57	2.52	4.47	2.50	2.47	2.45
	基準年度比	削減率	98%	174%	97%	96%	95%
軽油使用量 (c)	L	37,610	—	28,964	—	—	—
軽油使用量原単位 (c/a)	L/t	8.31	8.15	9.73	8.06	7.98	7.90
	基準年度比	削減率	98%	117%	97%	96%	95%
ガソリン使用量 (c)	L	820	—	695	—	—	—
ガソリン使用量原単位 (c/a)	L/t	0.18	0.18	0.23	0.18	0.17	0.17
	基準年度比	削減率	98%	129%	97%	96%	95%
水道使用量の削減	m ³	250	245	246	248	235	233
	基準年度比	削減率	98%	98%	97%	96%	95%
一般廃棄物	kg	220	216	215	213	211	209
	基準年度比	削減率	98%	98%	97%	96%	95%

* 産業廃棄物は廃棄無し 化学物質は使用無し

□ 環境経営計画の取組内容とその評価、次年度の取組内容

削減率：(実績÷基準値)×100%

達成率：削減目標=(目標÷実績)×100% 向上目標=(実績÷目標)×100%

取組内容の達成状況：○できた(100%) △(50%～100%未満) ×全くできなかった(0%)

取組内容	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
電力使用量の二酸化炭素排出量の削減	達成率	56%	(目標未達成)
・空調の適正化(冷房28℃・暖房20℃)	○	継続	・コロナ禍の状況で、ミーティングの機会が増えたのが原因。
・ブラインド・すだれを活用	○	継続	(次年度)
・昼休憩は電気を消灯する	○	継続	・コロナ禍の状況が続きますが、事業所の使用を制限して電力の削減に努める。
・LED照明への変更	○	次年度	
軽油使用量の二酸化炭素排出量の削減	達成率	84%	(目標未達成)
・不必要なアイドリングをしない	○	継続	・回収量は大幅に減りましたが、得意先の見回りは必要でした。
・急なアクセル・急なブレーキに注意する	○	継続	結果、回収量に対しての燃料の使用効率が下がりました。
・収集コースの効率化(回収ルート shortest等)	○	継続	(次年度)
ガソリン使用量の二酸化炭素排出量の削減	達成率	76%	・回収ルートの効率化、営業活動の効率化に積極的取り組む。
・不必要なアイドリングをしない	○	継続	
・急なアクセル・急なブレーキに注意する	○	継続	
・営業ルートの効率化(LINEによる営業等)	○	継続	
水道使用量の削減	達成率	100%	(目標達成)
・節水の呼び掛け	○	継続	・節水の意識の向上、雨水の活用(洗車)等により達成することができた。
・蛇口締めつけ確認	○	継続	(次年度)
・水漏れの点検	○	継続	・雨水の使用を積極的に使用できるように努める。
・雨水の利用	○	継続	
一般廃棄物の削減	達成率	100%	(目標未達成)
・裏紙の使用及び両面コピーの実施	○	継続	・裏紙の使用、ipadの活用に努めたが事務仕事量の増加により未達成となった。
・ipadの活用により用紙の削減	○	継続	(次年度)
・封筒の再利用	○	継続	・次年度は、プリントアウト後にFAXせず、パソコンより直接FAXを追加対策として実施し目標を達成する。
・パソコンより直接FAXの実施	○	次年度	
社会貢献	達成率	100%	
・事務所周辺の清掃活動(1回/月)	○	継続	・月1回、全員で実施した。次年度も継続実施する。
・ボトルキャップの回収(車いすの寄付)	○	継続	・ボトルキャップの回収を積極的に実施した。次年度も継続実施する。

□ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（届出の実施、測定の実施、基準値の遵守等）	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業（許可の有効期限）	遵守
家電リサイクル法	消費者の責務（使用済特定家庭用機器の引渡義務）（テレビ、エアコン、冷蔵庫）	遵守
自動車リサイクル法	事業者の責務（使用済自動車の引渡義務）	遵守
道路運送車両法	保安基準、点検、整備、検査	遵守
NOx-PM法	事業者の責務（規制対象区域の規制）（車検証）大阪府適合車ステッカー制度終了	遵守
フロン排出抑制法	管理者の責務（7.5kW未満業務用エアコン）簡易点検（3か月1回）、記録の保管	遵守

※ 環境関連法規制等の遵守状況の確認の結果、環境関連法規制等は遵守している。
 なお、関係当局より違反、訴訟などの指摘は、過去3年間ありません。

遵守確認年月日：2020年3月31日
 環境管理責任者：森川幸男

□ 外部から環境に関する苦情、要望などありませんでした。

□ 代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 全体の評価

事務の仕事量の増加に伴い、電力使用量及び一般廃棄物が増加した。ただ、取組内容は、それぞれ実施されている。自動車燃料使用量（軽油、ガソリン）は、回収ルートの効率化（最短化等）及び営業活動の効率化（LINEの活用等）を推進した結果、大幅に削減した。
 水使用量も節水の意識の向上、雨水の活用（洗車）等により達成することができた。

(2) 見直し・指示

電力使用量は、不要電力の消灯、空調温度の適正化を継続実施すること。次年度は、事業所のLED照明に更新することを検討すること。自動車燃料使用量は、生産性の向上（コストの削減）につながるので次年度も回収ルートの効率化、営業活動の効率化に積極的取り組むこと。水使用量は、コロナ対応で手洗いの水が増加するが無理のない範囲内節水に努め、次年度は、コロナの関係で目標設定を維持目標とすること。社会貢献活動（事務所周辺の清掃活動、ボトルキャップの回収）は、今後も継続実施すること。

項目	見直しの必要性	必要に応じて変更指示
環境経営方針	要	産業廃棄物処理業者向けガイドライン2017年版に基づき改訂
環境経営目標	否	—
環境経営計画	否	—
実施体制	要	産業廃棄物処理業者向けガイドライン2017年版に基づき見直す
その他の要素	否	特になし

2021年4月20日
 代表取締役 藤下 正幸